

盛岡を発掘する

平成21年度調査速報

あかやきどき【あかやき土器】

土師器(は)と似ているが、須恵器(すえき)製作の技法で作られた赤色の土器。ロクロを使って作られ、盛岡市内では9世紀から出土するようになる。



あかやき土器(杯)の出土状況 (大宮北遺跡)

あさばち【浅鉢】 高さが口径の3分の1以上2分の1未満の土器の器形を浅鉢というが、明確な基準で分類はできない。おもに縄文時代の土器に使用呼称。

いこう【遺構】 過去の人間が地面に残した痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基礎、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。いしさら【石皿】 扁平な大型の礫で、上面中央が通常浅くくぼんだ石器。石材は、安山岩系が多く用いられた。磨石や凹石を上手に潰しなど多様に使用された。

いぶつ【遺物】 過去の人間活動の動産的な所産。土器や石器など過去の人間が加工・製作した人工遺物と、加工の痕跡はなくとも、鉱物や動植物の遺存体など、人間活動

の結果もたらされた自然遺物の二つに分けられる。いぶつぼうがんそう【遺物包含層】 土器などの遺物が含まれる土層のこと。雨などで土が流されたときに遺物が一緒に流されて堆積する場合や、不要になった土器などが捨てられて堆積する場合などがある。



遺物包含層の様子 (繫V遺跡)

おとしあな【陥し穴】 動物を捕獲するため楕円・長楕円・円形などで、大小さまざまだが、長径2m前後、検出面からの深さ1~2m前後である。底面に深い小穴を1個ないし数個もつものがあり、先端の尖った杭をたてて落ち込んだ動物を刺したと考えられる。

かめ【甕】 弥生時代以降の煮炊や液体の貯蔵に用いられた容器の名称。長胴甕・球胴甕など。かわらけ【かわらけ】 土師器の系譜に連なる素焼きの碗・皿・杯形の土器。都市や城館、寺院などから多く出土する。灯明皿や儀式・饗宴などにおける酒杯・皿として使われた。都市型・非日常型の土器。素焼きで安価であることから、清浄の象徴として再使用しない慣習であった。権威の象徴として、儀式・饗宴の規範を実現するために用いられたものと考えられる。

さんかくとうがた【たせいひん】 【三角搦形土製品】 横断面が三角形になる柱状の土製品。多くは二側面が両端面に文様が、片側面から長軸方向に貫通した孔をもつもの。孔がないものなどがある。縄文時代中期の北陸地方に多く、秋田や長野など東日本に分布する。同形の石製品もあるが、使用目的や用途は不明。

すえき【須恵器】 窯で1000℃以上の温度で焼かれたもの。青灰色を呈する。もとは朝鮮半島から伝わった。ロクロを使用した成形技法と、窯による焼成技法に特徴がある。盛岡市内では8世紀以降に出土するようになる。たてあな【竪穴住居】 地面を掘りくぼめ、上に屋根下式の住居。夏は涼しく、冬は暖かい。東北北部では縄文時代早期から古代まで続き、中世に入った後も竪穴建物として、半地下式の建物を利用していた。縄文時代には炉が、古代には壁にかまどが備え付けられていた。



奈良・平安時代の竪穴住居跡 (台太郎遺跡)

【環】 古代のもつとも一般的な食器。碗より浅く、皿より深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いが見られる。とうす【刀子】 現在の小刀やナイフにあたる小型で短い刀。使用用途は、木簡を削る、携帯用の短刀、包丁などであり、非常に多形である。



刀子の出土状況 (台太郎遺跡)

どこう【土坑】 人が意図的に掘った穴のこと。埋葬・貯蔵・ごみ捨て・粘土採掘・掘立柱など、多様な用途が考えられる。どこうぼ【土坑墓】 穴を掘って墓壇(ぼこ)とし、そこに遺体をおさめた墓。棺のないものも指し、形状や深さは様々である。はじき【土師器】 野焼きで約700~800℃の温度で焼かれたもの。縄文・弥生土器の流れをくむ素焼きの土器。赤・褐色系の色調を呈する。ばんじょうどぐう【板状土偶】 人物をかたどった板状の土製品。おもに、呪術用や埋葬品として使用されていた。大部分は女性をモチーフにしている。ふかばち【深鉢】 口縁部が大きく開いた鉢形の土器。縄文土器に用いられる用語。おもに煮炊き用に使われた。

ふせがめ【伏甕】 竪穴住居の床下に、底部に穴をあけた土器を逆さに埋めた特殊な遺構。縄文時代中期に多くみられる。盛岡市内では、繫V遺跡のほかに、大館町遺跡、柿ノ木平遺跡、上米内遺跡などで発見されている。出産の際の「胎盤埋納」または「乳幼児の埋葬施設」、住居を作る際の「地鎮」などのために埋められたという説がある。

ほうすいしや【紡錘車】 長くつないだ繊維をほうすいしや【紡錘車】 長くつないだ繊維の糸を紡ぐための道具。紡錘車の中心の孔に棒を通して、その棒に繊維を装着して、全体をコマのように回転させながら糸を紡ぐ。できた糸を巻きとっていく。形状は、円盤・球・円柱・算盤玉形などがあり、材質も土製・石製・鉄製など多様である。ほったてばしら【掘立柱建物】 地面に穴を掘り、そこに下端部を直接埋め込んで立てた柱で構成される建物。縄文時代から近世まで存続する。柱を埋めるために掘った穴を掘り方という。ませいせきふ【磨製石斧】 蛇紋岩・緑色花崗岩などの石材を磨き上げて仕上げた石斧。おもに、木材加工に用いられた。磨製石斧の技術は、旧石器時代後期には既に出現している。日本では、縄文・弥生時代に盛行した。やじり【鏃】 矢の先端につけて狩りなどに使用する。材質により石・鉄・銅など種類や形は様々である。



磨製石斧の出土状況 (繫V遺跡)



石囲埋甕炉 (繫V遺跡)

火を焚いた場所。一定の場所を火を焚き続ける熱で地面が赤く変色する。石で囲んだ石囲埋甕炉、土器を埋め込める複式炉、住居の床面で火を焚いた地床炉など、形態は多種多様である。調理、暖房、照明の機能をはたした。

「平成21年度調査成果報告会」

～ 繫V遺跡・台太郎遺跡・高櫓A遺跡・稲荷町遺跡 ほか ～

- 日時 ■平成22年3月7日(日) 13:30~15:00
- 会場 ■盛岡市遺跡の学び館研修室(定員80名)
- 講師 ■当館職員 * 入場無料・事前予約不要

2月16日(火) ~ 6月20日(日)

盛岡市 遺跡の学び館



繫V遺跡 (つなぎVいせき) 第36次調査 (繫)

繫V遺跡は市内でも有数の縄文時代中期(約5,000~4,000年前)の集落遺跡です。今年度は昨年に引き続き、繫小学校の増改築工事に伴う緊急調査を実施しました。昭和26年の繫小学校(当時)校庭整地工事の際に見つかった国指定重要文化財の伏甕7個体の出土地点は今年度の調査区のすぐそばにあたります。

今回の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡55棟、土坑、柱穴等が多数見つかり、土器や石器なども大量に出土しました。特筆すべきは縄文時代中期の竪穴住居跡7棟から伏甕10個体が見つかったことです。伏甕とは、竪穴住居の床面下に土器を逆さに埋めた特殊な遺構ですが、今回の伏甕の発見は、国指定の深鉢形土器を含め伏甕の性格を考える上で重要な手がかりとなるものです。



第36次調査区 竪穴住居跡



第36次調査区 伏甕の出土状況



第36次調査区 全景

西黒石野遺跡 (にしくろいしのいせき) 第23次調査 (黒石野)

今年度は、共同住宅建設に伴う本調査を実施しました。これまでの調査では、縄文時代中期前葉を中心とした集落跡や、陥し穴状遺構などが多数見つかります。また、早期中葉の遺物包含層からは、無文土器や貝殻文土器などが多数出土しています。

今回の調査では、縄文時代中期の陥し穴状遺構10基と、江戸時代以降の溝跡1条、時期不明の土坑1基と溝跡1条などが見つかりました。陥し穴状遺構が並んだ状態で見つかった地点の地形はなだらかな斜面となっており、当時はその斜面を利用した狩猟場であったと考えられます。なお、縄文土器が数十点と、江戸時代の陶磁器が数点出土しています。



第23次調査区 陥し穴状遺構

台太郎遺跡 (だいたろういせき) 第67・68・70次調査 (向中野)

今年度は、盛南開発に伴う3箇所の本調査を実施しました。これまでの調査では、主に奈良・平安時代を中心とした集落跡や中世の掘立柱建物跡などが多数見つかっています。

第68次調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡12棟と、中世の堀跡2条、時期不明の土坑1基と溝跡1条が見つかりました。また、奈良・平安時代の土師器・須恵器・あかやき土器の坏・甕と、土製の紡錘車1点及び刀子1点が出土しています。今回の調査で堀全体の形が明らかになりました。形状は不整五角形ですが、その規模からみて、かなりの有力者が治めていた可能性が考えられます。



第68次調査区 堀跡



第68次調査区 全景

高櫓A遺跡 (たかやぐらAいせき)

第5次調査 (永井)

今年度は、宅地造成に伴う本調査を実施しました。これまでの調査では、主に奈良・平安時代を中心とした竪穴住居跡などが多数見つかっています。

今回の調査では、奈良時代の竪穴住居跡9棟と、古代以降の土坑6基及び溝跡1条、焼土遺構1基が見つかりました。また、奈良時代の土師器(坏・甕)や、土製の紡錘車が1点出土しました。竪穴住居跡は大きなもので約7.0m四方、小さなもので約2.2m四方の大きさでした。大きな竪穴住居跡は、家父長クラスの住まいと考えられます。



第5次調査区 全景

西鹿渡遺跡 (にしかどいせき)

第23次調査 (三本柳)

今年度は、個人住宅建設に伴う本調査を実施しました。これまでの調査では、主に奈良・平安時代を中心とした集落跡が数多く見つかっています。

今回の調査では、竪穴状遺構1棟と土坑3基が見つかりました。また、奈良時代の土師器の坏・甕が数点出土しています。時期を示す資料が乏しく遺構の時期は不明ですが、周辺から奈良時代の集落跡が見つかることから、今回の調査で見つかった遺構と、何らかの関係を持つものと考えられます。



第23次調査区 全景

新堰端遺跡 (しんぜきばたいせき)

第10次調査 (下太田)

今年度は、個人住宅建設に伴う本調査を実施しました。これまでの調査では、主に平安時代を中心とした竪穴住居跡や、志波城跡に関連する遺構などが見つかっています。

今回の調査では溝跡が1条見つかりました。また、奈良時代の土師器の球胴甕が上半分のみ見つかっています。この球胴甕には赤彩が施されていました。今回見つかった溝跡は、隣接する田貝遺跡で確認された溝跡(一町溝: いっちょうみぞ)の延長とつながることからも、志波城跡に関連するものと考えられます。



第10次調査区 全景

稲荷町遺跡 (いなりちょういせき)

第25次調査 (稲荷町)

今年度は、共同住宅建設に伴う本調査を実施しました。これまでの調査では、縄文時代中期～後期の陥し穴状遺構や、中世～近世の掘立柱建物跡などが見つかっています。

今回の調査では、江戸時代以降の掘立柱建物跡2棟と竪穴状遺構1基などが見つかりました。また、安土・桃山時代～江戸時代初期のものと思われる陶磁器(唐津焼の皿)が1点出土しています。なお、調査区南側で見つかった掘立柱建物跡は、庇が付いた大きな屋敷であったと考えられます。



第25次調査区 全景

盛岡市内の主な遺跡と時代

時代		年代	西暦	主な出来事	市内の主な遺跡	今年度調査遺跡	
原 始	旧石器時代			大陸と地続き、大型の動物が生息する	小石川遺跡（玉山区藪川）		
	縄 文 時 代	草創期	15,000年前		土器の使用がはじまる	大新町遺跡（大新町）	
		早期	8,000年前		定住化がすすむ	館坂遺跡（前九年） 庄ヶ畑A遺跡（上米内） 大新町遺跡（大新町） 日戸遺跡（玉山区日戸） 新茶屋遺跡（山岸） 上八木田遺跡（新庄） 畑遺跡（上米内）	
		前期		6,000年前		気候の温暖化、海水面の上昇 漁労の発達、各地に大型住居が出現	
		中期	5,000年前		各地に大規模な縄文集落が発達	（県史跡）大館町遺跡（大新町） 柿ノ木平遺跡（浅岸） 繫V遺跡（繫） 上米内遺跡（上米内） 川目C遺跡（川目） 湯沢遺跡（湯沢） 大葛遺跡（浅岸） 落合遺跡（下米内） 料内遺跡（繫）	西黒石野遺跡（黒石野） 繫V遺跡（繫）
		後期		4,000年前		気候の寒冷化 ストーンサークルがつくられる	上平遺跡（猪去） 手代森遺跡（手代森） 川目A遺跡（川目） 宇登遺跡（玉山区川又）
		晩期	3,000年前		東日本で亀ヶ岡文化が栄える		
弥 生 ・ 古 墳	弥生時代	2,000年前	紀元前	水田耕作の開始 金属器の使用が始まる	手代森遺跡（手代森） 繫VI遺跡（繫） 一本松遺跡（下米内）		
	古墳時代	1,700年前	紀元後 57 239	倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を賜る 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを出す ヤマト政権、統一進む	永福寺山遺跡（下米内） 薬師社脇遺跡（浅岸）		
古 代	飛鳥時代	1,400年前	593 645	聖徳太子が摂政となる 大化の改新	上田蝦夷森古墳群（黒石野） 竹鼻遺跡（上鹿妻）		
	奈良時代	1,300年前	710	平城京に都をうつす	太田蝦夷森古墳群（上太田） 百目木遺跡（三本柳） 台太郎遺跡（向中野） 釜崎遺跡（玉山区好摩） 西鹿渡遺跡（三本柳） 永井古墳群（玉山区永井） 館・松ノ木遺跡（上太田）	高槽A遺跡（永井） 西鹿渡遺跡（三本柳）	
			724	多賀城が築かれる			
	平安時代	1,200年前	794	平安京に都をうつす 胆沢城(802) 志波城(803) 徳丹城(812) が築かれる	（国史跡）志波城跡（下太田） 台太郎遺跡（向中野） 前野遺跡（浅岸） 乙部方八丁遺跡（乙部） 林崎遺跡（下太田） 芋田遺跡（玉山区芋田） 稻荷町遺跡（大館町） 内村遺跡（下飯岡）	志波城跡（下太田） 新堰端遺跡（下太田） 本宮熊堂B遺跡（本宮） 台太郎遺跡（向中野）	
			894	遣唐使が停止される			
1,000年前			1016 1051 1083 1124 1189	藤原道長が摂政となる 前九年の戦い（～1062年） 後三年の戦い（～1087年） 中尊寺金色堂完成 奥州藤原氏滅亡			
中 世 ・ 近 世	鎌倉時代	800年前	1192	源頼朝が征夷大将軍となる 文永の役(1274) 弘安の役(1281)	大宮遺跡（本宮） 堰根遺跡（浅岸） 台太郎遺跡（向中野） 落合遺跡（下米内） 里館遺跡（天昌寺町） 安倍館遺跡（安倍館町） 日戸館跡（玉山区日戸） 下田館跡（玉山区下田） 玉山館跡（玉山区玉山） （国史跡）盛岡城跡（内丸） 一里塚 南部家墓所（北山） 山蔭窯・花古窯（新庄）	台太郎遺跡（向中野）	
	室町時代	600年前	1336	南北朝に分かれ、対立する			
	1338		足利尊氏が征夷大将軍となる				
	安土桃山時代	江戸時代	400年前	1404	足利義満、明との貿易を開始する		
				1467	応仁の乱		
1588	南部信直が紫波郡を攻略する						
1590	豊臣秀吉が天下を統一する						
1600	徳川家康が征夷大将軍となる						
1641	鎖国の体制が固まる						
近 代	明治時代	150年前	1853	アメリカの使節ペリー浦賀に来る			
			1868	大政奉還 王政復古の発令			